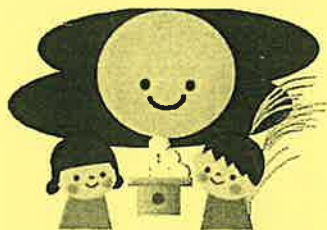


小島地区ふれあいセンターだより



令和4年9月 第387号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



9月の行事予定 ※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
2日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
6日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
7日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
9日(金)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
13日(火)	小島中学校区青少年育成協議会	
21日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
24日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～
	小島地区連合自治会連絡会議	

※上記の行事は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、日程を変更(中止又は延期)する場合があります。

「令和4年度 小島地区ふれあいセンターまつり」の中止について(お知らせ)

小島地区ふれあいセンターの運営につきましては、日頃から、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

小島地区ふれあいセンターでは、例年、秋に「ふれあいセンターまつり」を開催していましたが、令和2年度及び3年度におきましては、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、中止いたしました。

このたび、令和4年度の「小島地区ふれあいセンターまつり」の開催の有無について、去る7月5日(火)の運営委員会で協議を行いました。

運営委員会では、都道府県別の人口あたりの新型コロナウイルス感染者数の推移において、長崎県が上位に位置していることや、舞台発表の際、観客席において、3密(密閉空間、密集場所、密接場面)を避けることが難しいのではないかと、などの意見が出されました。新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえ、誠に残念ではございますが、「令和4年度 小島地区ふれあいセンターまつり」につきましては、中止させていただくことに決定いたしました。

展示・舞台発表の皆様方及び、地域の皆様方には、上記の決定について、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

ふれあひ俳壇

竹林を出でくる風と瑠璃るりとかげ蜥蜴 永福倫子

瑞光石ずいこうせき拜むに蟻を蹴散らして 大久保俊子

毎日が最後の晩餐冷奴 許斐洋子

降り明けの涼しき風や句碑の坂 園田洋子

帰省子を待ち幾度も門に立つ 田中怜子

竹皮を脱ぎ百幹の庵の空 田原より子

石彫りの河馬の目を剥く暑さかな 辻原晩夏

芙蓉咲く読経の声と眠る嬰と 並川友子

田上尼のその面影の花生姜しょうが 簗先四十三

孟蘭盆うらぼんの干菓子かんしの揃ふ浜まんまち 松永美記子

白玉や名水ほこる城下町 村川雅代

行く先はもう決めている蝸牛かたつむり 宮上サツミ

祇園会ぎおんえや初宮の児の幸祈る 山本松子

崎陽歳時記(44) 竹方其

愛された豚食(二) その④

西郷隆盛も、脂身のたつぷりのった豚肉料理が大好きで、新撰組も、西本願寺駐屯時に、松本良順の勧めで、神戸から子豚を持ち込んで飼育し、食したという。

このように、肉食は表向きには禁忌されていたが、豚への食生活は、徐々に日本の隅々に浸透していった。

豚肉の匂ひや島の旧正月 大嶺清子

豚小屋のほひ切なし初社 伊藤白鳥

開墾の初めは豚と一つ鍋 依田勉三

豚料理で有名なものとして、沖縄料理が挙げられる。

もともと沖縄では牛肉がメインの食材であったが、江戸期に入り、王府の農業振興策で農業(田畑を耕作する農耕用)に役立つ牛を潰して食することが禁じられた。

それに代わって、豚が普及するのであるが、その直接の原因は、中国の使節団(冊封使節)が滞在する中国人たちの食料に、大量の豚肉を必要とした。

沖縄料理 ゴーヤチャンプルー

ソーキそば

てびち(豚足)



てびち(豚足)

東山手界限 ⑦

○旧英国領事館坂道

・坂を道なりに下り、昭和会病院を左に進みます。その先の左手に坂道があります。

・安政7年(1860)頃、イギリス領事館が建ったときの坂道です。

(松枝橋写真)

・八の字形の坂が特徴です。昇る途中のレンガ塀はフランス積となっています。

・明治20年(1887)アメリカ改革派教会のヘンリー・スタウトによりスチール記念学校が設立されました。(昭和48年(1973)グラバー園内に移設保存されています)

○東稜中学校碑

・昭和8年(1933)東山学院を設立、昭和15年(1940)東稜中学校に改称、昭和27年(1952)長崎南山学園として浦上に移転しています。

○東山手洋館群

・明治20年代後半、外国人への賃貸住宅として建築された、擬洋風建築物。

・ここには、7棟の住宅が集中して残っています。

・各棟二所帯住宅として建てられ、水周り火の回りは別棟に作られています。

・東山手地区町並み保存センター、古写真・埋蔵資料館、東山手「地球館」として利用されています。

○オランダ坂(誠孝院)(ジヨウコウイン)

・最初にオランダ坂と呼ばれた坂。グラバーさんも日曜日に英国聖公会会堂へ通った道と言われます。

・居留地内の石畳は、外国人が入居する際に、居留地内の道路を石畳で舗装すること、特に礼拝堂(天主堂)までの通路は、最優先で舗装するように要請されたそうです。

東山手界限は、これで終わり。

オランダ坂を下り、右に向います。

ここからは、大浦地区居留地となります。

崎陽歳時記(44) 竹方其

愛された豚食(二) その③

江戸時代は、建前として獣肉食の禁忌が守られており、特に上流階級は、この禁忌を守った。

しかしながら、江戸時代は町人文化が開花し、食生活が豊かになってくると、町人たちは、「薬食い」と称して、豚・鹿・馬を「ぼたん」「もみじ」「さくら」などと称し、肉食に親しむようになっていった。

文政十年(一八二七)の佐藤信淵の著した『経済要録』に、薩摩藩の江戸邸では豚を飼育し、それによってとれた豚肉を町で売っていたという記録、また、江戸では「ももんじ屋」という店屋で豚肉を食べさせている。

幕末を迎える頃、江戸幕府の最後の将軍・徳川慶喜は、島津斉彬から、父・徳川斉昭宛に豚肉が送られ、そのせいか彼は豚肉を好んで食べており、「豚一様」と呼ばれた。

「豚一様」とは、「豚肉が好きな一橋様」の呼称である。

慶喜が肉食をするルーツは、実家である水戸徳川家である。

代々、牛を飼育して牛乳を飲んだり、バターを作った家柄、水戸徳川家では、ごく日常的なものであった。

慶喜の妹・八代姫は、乳牛と、その牛の飼育係と共に仙台藩に嫁いでいる。

このようなことから、慶喜が豚を食することは特別なことではなかった。



〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	忍者に結婚は難しい	横関 大	講談社
	ホットサンド	堀田 貴之	実業之日本社
	文章がフツーにうまくなるとっておきのこと	関根 健一	大修館書店
	感じのいい人は、この「ひと言」で好かれる	森 優子	三笠書房
	弘兼流 60歳からの手ぶら人生	弘兼 憲史	中央公論新社
	パラドックス 13	東野 圭吾	講談社
	三毛猫ホームズの卒業論文	赤川 次郎	KADOKAWA
	為吉	宇江佐 真理	実業之日本社
	つくもがみ貸します	畠中 恵	角川書店
	九十九藤(つづらふじ)	西條 奈加	集英社
	「デジタル社会」とは何か	友寄 英隆	学習の友社
	絶対に知らないとヤバイ！生前贈与の手続き	柴崎 貴子	彩図社
	医者に「やせなさい」と言われたら。		オレンジページ
	香田あおいの簡単に、きれいに仕上がる服	香田 あおい	NHN 出版
	絶対大丈夫	飯尾 哲司	幻冬舎
	燕は戻ってこない	桐野 夏生	集英社
	日本人だけが知らない「本当の世界史 中世編」	倉山 満	PHP 研究所
	子育て本ベストセラー100冊の「これスゴイ」	江口 祐子	ワニブックス
	お柳、一途	宇江佐 真理	朝日新聞出版
80歳の壁	和田 秀樹	幻冬舎	
児 童 図 書	でんしゃでまなぶにほんのめいさん	「旅と鉄道」編集部/編	天夢人
	おふろのなかのジャングルたんけん	まつおか たつひで	童心社
	戦争が町にやってくる	ロマナ・ロマニーシン	ブロンズ新社
	あいしてくれてありがとう	宮西 達也	ポプラ社
	おまえうまそうだな	宮西 達也	ポプラ社
	キラリモンスター	小川 凜一	大和書房
	黄色い竜	村上 康成	徳間書店
	楠木正成	加来 幸三	ポプラ社
	藤原道長	加来 幸三	ポプラ社
足利尊氏	加来 幸三	ポプラ社	